

「であい・ふれあい・まなびあい」から
「つながりあい・ささえあい」へ

おおつ! おおおか! 再発見 大岡集楽学校



大岡一〇区をフィールドに開催する地元学講座
 「であい・ふれあい・まなびあい」から「つながりあい・まなびあい」へ
 をテーマに、昨年と今年の二年間、大岡全区を北から順に
 巡っています。今年度は、中央中部根越芦ノ尻笹久の五
 地区を探訪、地域を歩きながら、地域のみなさんと交流
 し、地域を再発見する意義深い講座です。各区を巡りな
 がら、地元の方の説明や講師・宮下健司先生の解説を交え
 て地域のことを学びます。

大岡地区住民自治協議会 会長 中村哲夫

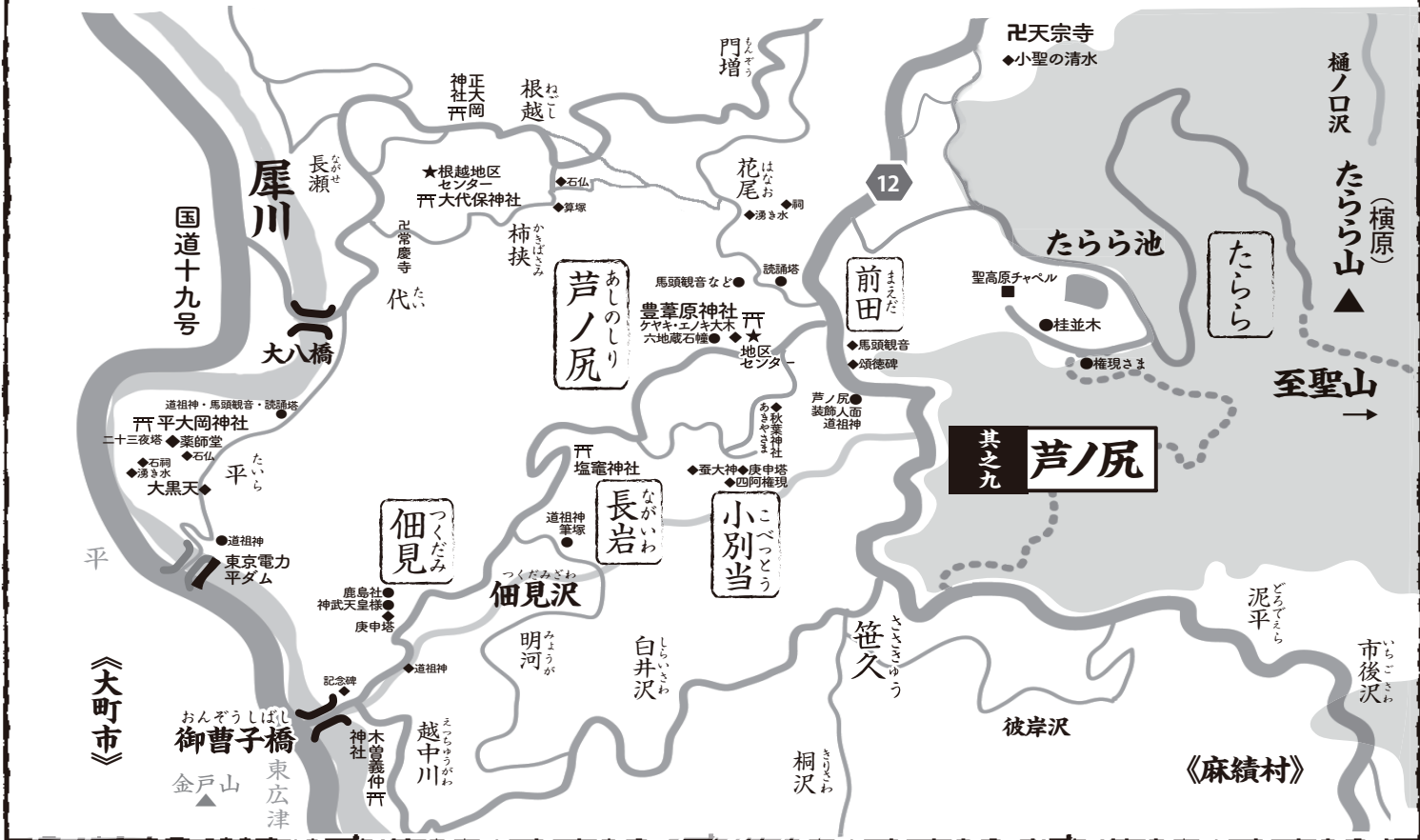
其之⑨
芦ノ尻
 あしのしり
 平成28年
10/16(日)



- 大岡支所 8:30集合(バス受付) 開講式
 ⇒ 越中川 御曹子橋・木曾義仲神社
 ⇒ 佃見 鹿島神社 (※笹久地区越中川)
 ⇒ 長岩 塩電神社
 ⇒ 芦ノ尻 神面装飾道祖神
 ⇒ 前田 馬頭観音・供養塔(草競馬跡)
 ⇒ たらら たらら池・権現様
 ⇒ 芦ノ尻地区センター・道祖神記念館
 豊葦原神社・ケヤキ・エノキ大木・六角石幢
 ⇒ 昼食 <芦ノ尻地区センター>
 芦ノ尻地区の方々の協力
 ⇒ ビデオ紹介、小別当集落、秋葉社ほか
 ビデオ上映「懐かしのお宝映像公開」
 講師のお話 <芦ノ尻地区センター>
 ★部分参加可能 ⇒ バス 大岡支所 (解散)
 16:40頃

主催 / 大岡地区住民自治協議会・芦ノ尻区

共催 / 長野市大岡支所・大岡中学校・大岡小学校・大岡小中PTA



12 豊葦原神社

とよあしはらじん じゃ

●神社左の二本の大木は樹勢いまだ衰えず、かつては右側にも大木があったが大正四年、切り倒され、根越分教所教場と豊葦原神社の建材に使われた。

◎神明造り、鯉木三本、千木内削ぎの建物。拝殿に日露戦争の戦艦の奉納絵馬が残ります。現在は天伯社、金比羅社、天王社（天皇様）、津島神社、金山神社も合祀。かつてはここに天伯社の九尺角の小さな社殿があったといわれます。明治四十年頃から、大岡の神社は、根越・和平・川口・聖の四社に合祀されていきますが、芦ノ尻では天伯社にまとめ、同四十三年に「豊葦原神社」として神社名簿に記しました。大正五年に豊葦原神社の神殿を新築。現在の道祖神記念館南側にはかつて五間×三間の舞台もありました。

◎大ケヤキ・大エノキは長野市の天然記念物指定木。樹齢推定四百年・三百年。

大ケヤキ古木

大エノキ古木

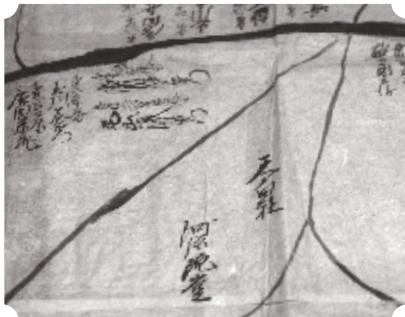


信仰の水脈をたどる

●芦ノ尻の秋祭りはこの金比羅社で行われていたが、明治四十三年、豊葦原神社ができ、同社も合祀された。現存する奥の神殿や鳥居、常夜灯は金比羅社のものだという。細久保向いの道路の岩の上にあった天王社は、神武帝を祀ったと誤伝され「天皇様」とも呼ばれた。4月3日の例祭は、天王社の例祭を継ぐもの。祭神は、天王社と同じ牛頭天王（スサノウに習合）を祀る。金山神社は鍛冶職人や金物を扱う職人の神様。かなまら様とも云われ、夫婦和合、下半身の病気治療のご神徳も伝わる。



境内の古い祠の伝承は途絶え伝わっていないが、祠は天白社・金比羅社・古峰社・天皇様と伝わる。



廣田忠夫さんの家の古地図に記された「天白社」「阿弥陀堂」

天白神は風の神。柳田国男『石神問答』民間信仰（修験道）で風水除の神などの説があり、現在では伝承が消えてしまったものが多い。阿弥陀堂は名残りで葬儀の道具などを収蔵した堂がすこし前まであり地域の葬祭に使われていたという。



記念館の前身となった「庁屋」での共同作業。地区を上げて注連縄を編み上げる当時の様子。（記録写真より）



記録写真を中心に壁面を展示スペースとして建物は催し等に活用されている。



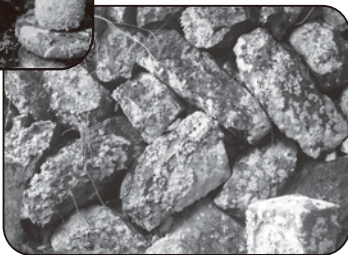
◎「元は神社左手間の「庁屋（ちょうや＝会所）」が稚蚕飼育所から保育園となり、場所を移し現在の道祖神記念館となった。

珍しい石幢と石碑、阿弥陀堂ゆかりの石造群



●石幢の左の石碑は「新四国八十八ヶ所霊場」の十一番。「文政十亥三月吉日 大原村 勤進伊兵衛」の文字が刻まれている。

矢羽積み（谷積）の石垣



六地藏の石幢
「天保十二子四月再建 邑中世話人」と彫られている。石幢の六地藏尊は古い様式を模したもので珍しい。

縦横の力を分散地震にも強い技術

13 芦ノ尻地区センター 道祖神記念館